

我 叫 他 殺 了 彼に殺させた 彼に殺された
私 彼 殺す [完了]

この例のように結果的影響性の強い動詞（「殺す」など）の場合、主語の名詞句は動作の担い手とも受け手とも取られるが、そうでない動詞（「引っ張る」など）の場合は受身の解釈は成立しない。

我 叫 他 拉 了 彼に引っ張らせた ×
私 彼 引っ張る [完了]

しかし、次のように影響の結果を示す表現（ここでは「引っ張る」の意味の「拉」に「倒」を添えたもの）を使えば受身の意味にも解釈できるといふ。

我 叫 他 拉 倒 了 彼に引き倒させた 彼に引き倒された
私 彼 引き倒す [完了]

4.11 一致 agreement

文において関連する要素どうしが形式上の関係を示すことを一致という。まず、動詞の形に現れるものがある。英語でgoとなるかgoesとなるかはその主語の人称と数によって決まる。英語ではこのような形をほとんど失ってしまったが、ドイツ語の直接法現在形は次のように人称と数によって形が異なる。

表8 ドイツ語 動詞「持つ」直接法現在形

	単数	複数
1人称	habe	haben
2人称	hast	habt
3人称	hat	haben

ロシア語でも同様だが、過去形の場合は人称は関係なく、数と名詞のクラス（性）が関係する⁸。

表9 ロシア語 動詞「行く」過去形

	単数	複数
男性	šol	šli
女性	šla	
中性	šlo	

ハンガリー語などでは、主語だけでなく目的語によって動詞の形が異なる場合がある。

形容詞も修飾する名詞や主語との一致を示す言語がある。

5 対格言語と能格言語

日本語では「太郎が走った」という自動詞文でも「太郎が雑誌を読んだ」という他動詞文でもその動作主である「太郎」は同じ格表示「が」を取る。英語でも同様である。英語の場合、名詞は格が形では示されないのので代名詞を例にとっていうと、走った人も読んだ人もどちらも同じHe/She（主格）で示される。ところが、バスク語やカフカスの諸言語などでは

⁸ ロシア語の場合、主語の性別も関わる。したがって、同じ「私」でもその人間が男か女かで動詞の過去形の形式が異なる。また、女性形と中性形が発音上区別できない動詞も多い。

事情が異なり、「太郎が走った」の「太郎」と「太郎が雑誌を読んだ」の「雑誌」が同じ格表示を受ける。日本語や英語のようなタイプの言語を対格言語 (accusative language)、バスク語やカフカスの諸言語などのタイプを能格言語 (ergative language) と呼ぶ⁹。格の種類を●○▲△で表して日本語の文でその関係を示すと次のようになる。

表10

対格言語の格表示	能格言語の格表示
(太郎● 走った)	(太郎▲ 走った)
(太郎● 雑誌○ 読んだ)	(太郎△ 雑誌▲ 読んだ)

ここで「●=主格」、「○=対格」、「▲=絶対格」、「△=能格」と呼ばれる。

自動詞の動作主を Subject (S)、他動詞の動作主を Agent (A)、他動詞の動作の対象を Patient (P) とすると、「S + 自動詞」、「A + P + 他動詞」となる。(SとAは自動詞と他動詞の動作主を区別して示すために便宜上分けたものである。) それらと格との関係を表にすると以下のようになる。

表11

対格言語の格表示		能格言語の格表示
主格 nominative	A 他動詞の動作主	能格 ergative
	S 自動詞の動作主	絶対格 absolutive
対格 accusative	P 他動詞の動作の対象	

9 厳密には、主格対格言語 (nominative-accusative language)、絶対格能格言語 (absolutive-ergative language) という。

以下、さらにいくつかの例文で示そう。対格言語のシンタクス (accusative syntax) では、日本語を例にとると、次のようになっている。

- (1) 父がもどった (「父」は自動詞の動作主でS)
S
- (2) 父が母を見た (「父」は他動詞の動作主でA、「母」は他動詞の動作の対象でP)
A P
- (3) 父がもどって母を見た
S/A P

(3) では、「父」は自動詞「もどる」のS、他動詞「見る」のAであるから、SとAを兼ねることになる。

能格言語のシンタクス (ergative syntax) の例としてオーストラリアのジルバル (Dyirbal) 語を見てみよう。

- (1') nguma-Ø banaga-nyu. (父[S]がもどった)
S
父-abs. もどった
- (2') nguma-Ø yabu-nggu bura-n. (父[P]を母[A]が見た)
P A
父-abs. 母-erg. 見た
- (3') nguma-Ø banaga-nyu yabu-nggu bura-n. (父[S/P]がもどって母[A]に見られた)
S/P A
父-abs. もどった 母-erg. 見た

nguma (父) は (1') と (2') で同じ格表示を受けているが、能格言語なので (2') の意味は上の日本語の場合と反対で、「父」が動作の対象となっている。(3') では、「父」は自動詞「もどる」のSだが、自動詞のとき